

平成30年度

単位施策評価表

所属 25150000

産業振興部 観光振興課

施策	6302 観光ネットワークの形成						
区分	妥当性		妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有
	上位貢献度		有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有
対象	観光施設の利用者						
施策が目指す姿	観光スタイルを一極集中型から多地域周遊型へ誘導するため、観光資源をつなぐ移動手段の確保、シティプロモーション等による観光情報提供体制の強化を図るとともに、広域観光ネットワークの形成を見据えた関連自治体との連携強化を図る。						
成果指標	観光客宿泊者数：5年間で16,000人（現状値13,096人）						
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標 1 [人／年]	予定	13,600.00	14,200.00	14,800.00	15,400.00	16,000.00
		実績	16,857.00				
	成果指標 2 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標 3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標 4 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	トータルコスト (千円)	予定	50,077	61,324	60,742	0	0
		実績	50,039	61,324	60,742	0	0
内部評価	貢献度	基本施策の目標指数「観光客入込数」を増加させるため、全市的な観光資源を繋ぐ観光ルートの創出及び効果的な情報発信が重要であるため貢献度は高い。					
	達成状況	受け入れ体制の整備や戦略的な情報発信など、各事業は適正に行われており、目標値も達成することができた。					
	課題	外国人を含めた観光客の受入体制の整備については進んでいるものの、全市的に周遊させるためのモデルルートの創生や二次交通情報の情報発信が不足している。					
	取組方針	地域ワーキンググループにおいて、各地域の観光資源の再発掘及び磨き上げを行い、全市的なデータベース化を図り、地域間のネットワークの形成を図る。					
外部評価	来訪者が何を求めているかを察知・把握することが大切であることから、アンケート調査など意見の収集に努めていただきたい。 受け入れ体制の整備や情報発信については、常に万全の注意を払っていただきたい。 各地域で抱える課題は異なるので、地域ワーキンググループで解決し、地域間のネットワークが形成されるよう活動に期待する。						
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	313201	観光振興宣伝事業費（栃木）				13,478	100
	313202	観光振興宣伝事業費（大平）				2,250	100
	313203	観光振興宣伝事業費（藤岡）				7,867	100
	313205	観光振興宣伝事業費（西方）				794	100
	313206	観光振興宣伝事業費（岩舟）				2,288	100
	314401	栃木県東京スカイツリーアンテナショップ事業費				3,929	100
	711101	自転車を活用した広域連携事業費				3,910	100
	724401	国際観光まちづくり事業費				4,367	100
	725701	サイクル・フルーツ・ライド事業費				3,550	100
	774501	文星芸術大学と国道293号線沿線市町連携事業費				1,008	100

単位施策評価表

所属 25150000
 産業振興部 観光振興課

[illegible]

単位施策評価表 補表

施策	6302 観光ネットワークの形成		
区分	妥当性	妥当	観光資源間の連携による取り組みに繋げるため必要な事業であり、実施は妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業実施における効果を検証することでコストの再確認を行い、引き続き適正な執行に努める。
	受益者負担	適正	一部負担による事業実施のほか、パンフレットの種類によっては、広告掲載による料金収入などを研究する余地はある。
	上位貢献度	有効	「観光客入込数」向上のための貢献度は有効である。
	類似事業の有無	無	他に類する事業はなく、代替は困難である。
	成果向上の余地	有	広報媒体を工夫することにより、成果向上の余地はある。
内部評価	貢献度	基本施策の目標指数「観光客入込数」を増加させるため、全市的な観光資源を繋ぐ観光ルートの創出及び効果的な情報発信が重要であるため貢献度は高い。	
	達成状況	受け入れ体制の整備や戦略的な情報発信など、各事業は適正に行われており、目標値も達成することができた。	
	課題	外国人を含めた観光客の受入体制の整備については進んでいるものの、全市的に周遊させるためのモデルルートの創生や二次交通情報の情報発信が不足している。	
	取組方針	地域ワーキンググループにおいて、各地域の観光資源の再発掘及び磨き上げを行い、全市的なデータベース化を図り、地域間のネットワークの形成を図る。	